「職業科」（職業専門・ものづくり科）学習指導案

1. 日時 平成27年12月
2. 場所 軽作業室2
3. 学部・学年・組 高等部第1学年
4. 単元名 「カトラリーボックス製作」
5. 単元目標
 - ・実際の仕事に必要な責任感や、規律の重要性を理解できる
 - ・木材を正確に切断できる
 - ・学習してきた技能を活かした製品を製作することで、達成感を得られる
 - ・授業を通して仕事への関心を持たせ、就労への意識を高める
6. 生徒観 略

7. 教材観

ものづくり科として学んできた専門技能を活かす場面として、様々な加工を施した部品を作製し、組み合わせて立体的な製品を製作する。具体的な製品として「カトラリーボックス」を製作する。部品を作成するためには、両刃ノコギリを用いた切断、ヤスリ・サンドペーパーを用いた研磨等、多岐にわたる技術が必要である。加えて、これらの加工技術を用いて作成した部品を組み立てる際に、加工精度が不足している場合、上手く組み立てることができない。複雑で長時間集中力が必要な作業になるため、「カトラリーボックス」は完成後に喫茶実習室へ納品し、実際に使われる製品であることを意識させ、作業のモチベーションを保つよう留意する。この単元の授業を通して、様々な作業を複合して木材を任意の形状に加工する技術を身につけると共に、加工精度の重要性の理解をねらいとしている。また、完成した製品を自ら納品することによって受注した作業をやり遂げたという達成感を得られ、木工技術への自信をつけるとともに、木工へのモチベーションを高めるねらいがある。

8. 指導観

授業を行うに当たり、生徒が安全に作業に取り組めるように常に留意し、机間指導を行い、教員の目が行き届くようにする。また、安全のために定められた服装（ジッパーを首元まで上げる・シャツの裾を出さない・靴のかかとを踏まない等）を徹底して指導する。授業開始後に必要な道具は教員の元まで、日直の号令で取りに来るように指導する。日直の号令に応じて動くことで、生徒の自立を促すねらいがある。また、ノコギリ等の手動工具に関しても、安全のために各グループで一つずつの使用とし、同時に作業する生徒が多くなりすぎないように徹底する。木材の加工に関しては、全体を五つのグループに分け、グループ内で協力しながら加工するように指導する。また、実際に指定した寸法に加工できているかを教員が計測し、やり直しを求める等することで、加工精度の重要性を考える機会を増やす。休憩時間には、特に危険な道具についてはカバーをかぶせる等の配慮を行う。授業形態は、チームティーチングで行う。T1は生徒の前に立って指示を出す。T2、T3が机間指導を行い、作業中の安全に留意した授業展開を目指す。

9. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①製品についてイメージすることができている。 ②製作した製品が、実際に使われることをイメージして加工できている。 ③教員・日直からの指示を聞くことができている。	①危険な道具を用いているという自覚が持てている。 ②最後まであきらめずに製作に取り組むことができている。 ③製品を納品することで達成感が持てている。 ④仕事であることを意識することができている。	①指定された寸法に加工することができる。 ②加工した部品を調整しながら、組み上げることができる。 ③納品書を書いて、納品することができる。	①設計図から必要な寸法を読み取ることができる。 ②製品には部品精度が重要であると理解できている。

10. 単元の指導と評価の計画（全21時間）

次	時	学習内容	評価規準
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・製作するカトラリーボックス入れについて理解を深める。 ・設計図から加工する部品の寸法を読み取る。 	【関③】 教員・日直からの指示を聞くことができている。 【関①】 製品についてイメージすることができている。 【思④】 仕事であることを意識することができている。 【知①】 設計図から必要な寸法を読み取ることができる。
第二次	2	<ul style="list-style-type: none"> ・1×1×6フィートのSPF材より部品を切り出す。 ・紙やすりを用いて仕上げを行う。 	【関③】 教員・日直からの指示を聞くことができている。 【関②】 制作した製品が、実際に使われることをイメージして加工できている。 【思①】 危険な道具を用いているという自覚が持てている。 【思④】 仕事であることを意識することができている。 【技①】 指定された寸法に加工することができる。
	3~4本時 5~14	<ul style="list-style-type: none"> ・1×1×6フィートのSPF材より部品を切り出す。 ・紙やすりを用いて仕上げを行う。 ・切り出した材料を木工用ボンドで組み立てる 	【関③】 教員・日直からの指示を聞くことができている。 【関②】 制作した製品が、実際に使われることをイメージして加工できている。 【思①】 危険な道具を用いているという自覚が持てている。 【思②】 最後まであきらめずに製作に取り組むことができている。 【思④】 仕事であることを意識することができている。 【技①】 指定された寸法に加工することができる。 【技②】 加工した部品を調整しながら、組み上げることができる。 【知②】 製品には部品精度が重要であると理解できている。

第三次	15 ～ 16	<ul style="list-style-type: none"> ・納品書を書く ・実際に製品を納品する 	<p>【思③】 製品を納品することで達成感が持てている。</p> <p>【技③】 納品書を書いて、納品することができる。</p>
-----	---------------	--	--

1 1. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・教員の指示を聞き、安全に注意して作業に取り組む
- ・部品の加工・組み立てを通して、加工精度の大切さを学ぶことができる

(2) 本時の評価規準

- ・【関②】 制作した製品が、実際に使われることをイメージして加工できている。
- ・【思①】 危険な道具を用いているという自覚が持てている。
- ・【技①】 指定された寸法に加工することができる。

(3) 本時で扱う教材・教具

- ・のこぎり
- ・差し金
- ・鉛筆
- ・紙ヤスリ
- ・木工用ボンド
- ・SPF材 (1×1×3フィート)
- ・ノギス (教員のみ)

(4) 生徒の実態と本時の目標 略

(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・ 学習活動	指導上の留意点及び 支援のたて等	評価規準・評価方法
15分 導 入	始まりの挨拶 ・日直があいさつ ものづくり科訓 唱和 ・日直が読み上げる	決められた席に着いた後、輪番 で決められる本授業の日直が、 前に出て挨拶を行う。(T 1 前に 立つ、生徒T 2, T 3 : 生徒J・ Eの服装を重点的に確認) ホワイトボードに貼り付けた、 ものづくり科訓を日直が読み上 げ、生徒たちに復唱させ、作業 への意識を高める。(T 1 一緒に 声を出す) (T 2, T 3 : 生徒B・Kの声が 出ているか重点的に確認)	授業開始前に席に着くことが できる 【思④】 [行動観察] 日直の方をしっかりと注目して 話を聞くことができる 【関③】 [行動観察]

	<p>日直からの話 ・日直から講話を行う</p> <p>制作する作品の説明を聞く</p> <p>工具・材料の準備</p>	<p>日直から、最近の出来事等を用いて、全体に注意を喚起する講話を行う。 (T 1、日直の話を補足する。)</p> <p>教員の制作した完成品を見せて、具体的なイメージを浮かべさせる。この際、手順・注意点等をわかりやすく説明することに留意する。 (T 1前で話す。T 2, T 3 机間指導、特に生徒G・Iが集中しているかを確認する。)</p> <p>グループごとに本授業に必要な工具を教員の所まで取りに来るように、日直が号令を出す。この際、返事の有無や危険行為がないか等に留意する。 (T 1 工具を渡す。)</p>	<p>日直の方をしっかりと注目して話を聞くことができる 【関③】[行動観察]</p> <p>教員の方をしっかりと注目して話を聞くことができる 【関③】[行動観察]</p> <p>日直の号令に従って工具の準備を行うことができる 【関③】[行動観察]</p>
60分	<p>日直から作業開始の号令を行う</p> <p>部品の製作 ・材料の切断 ・材料の仕上げ</p> <p>製品の組み立て ・木工用ボンドを用いて部品の組み立てを行う</p>	<p>定められた長さに材料を切断する。また、紙やすりを用いて断面を仕上げる。(T 2, T 3 机間指導。のこぎり作業に危険が無いか等を確認する。) その後、教員のチェックを受け、定められた誤差内に収まっていない場合はやり直しを指示する。 (T 1、寸法のチェック・修正の指示を行う。)</p> <p>全ての部品が完成した後に、木工用ボンドを用いて製品の組み立てを行う。(T 2, T 3 机間指導)</p>	<p>安全に工具を用いることができる【思①】[行動観察] 精度に留意して部品を製作することができる 【技①・関②・知②】 [行動観察・作品]</p> <p>製品をうまく組み立てることができる 【技②・思②】 [行動観察・作品]</p>
展開			

	休憩	危険な工具を多数取り扱っているため、走る・騒ぐ等の行為は厳しく制する。作業で用いた道具のうち、特に危険なものに関しては、カバーをかけるように徹底する。また、生徒に水分補給をするよう声掛けを行う。(T 1, T 2, T 3 休憩中の生徒が激しい動きをしないように留意する。)	休憩時間に入ると同時に作業をやめることができる 【関③・思④】[行動観察] 使用した工具にカバーをかけることができる 【思②】[行動観察]
	日直から作業終了の号令を行う		作業終了の号令で作業をやめることができる 【関③・思④】[行動観察]
	工具・材料の返却	グループごとに本授業に必要な工具を教員の所まで取りに来るように、日直が号令を出す。この際、返事の有無や危険行為がないか等に留意する。 (T 1 受け取り)	日直の号令に従うことができる 【関③・思①】[行動観察]
	清掃	自らの用いた工具を片付けるだけでなく、全員で協力して部屋全体の掃除を行うよう指導する。 (T 1, T 2, T 3 清掃)	汚れている部分を自ら探して重点的に掃除することができる 【思④】[行動観察]
30分	進捗の報告	作業進捗の報告を行う。(T 1 前に立つ、T 2、T 3 声が出ているかを確認する。特に生徒A・B) 本授業でできたこと、できなかったことを考え、モチベーションの向上を行うねらいがある。	進捗を正しく報告することができる。 【思④】[行動観察]
まとめ	教員からの総括	一人のけが人もなく、作品を完成できたことをすごいことだと褒める。 (T 1 前に立って話を行う。)	教員の方をしっかりと注目して話を聞くことができる 【関③】[行動観察]
	ポケットの中身を確認する	釘等がポケットに入っていないか安全のため確認する。	ポケットに何か入っていた場合に、教員に申告することができる

		(T 1 前から指示、T 2, T 3 確認のために机間指導)	できる 【関③】[行動観察]
	終わりの挨拶	指名した本授業の日直が前に出てきて挨拶を行う。また、忘れ物等がないよう、声掛けを徹底する。 (T 1 前であいさつ)	大きな声を出して挨拶ができる 【思④】[行動観察]

(6) 教室配置等 略